

# フォレストニュース

植林が地球を救う

平成30年(2018)3月10日

No. 123

発行 高津啓洋

## 森の始まりはポット苗



アメリカから、応援に来たカトリージョオンズさんは、ポット苗の種まきから、様々な木々や野菜まで幅広く育てています。

レダにあるポット苗用の鉢は常時、6160鉢用意されています。

今まで、ニームをはじめ、アルガロボ、パロサント、ケブラッチョ、ラパッチョ、チバト、ジャカランダと樹種は豊富です。

変わり種としてはカシューナッツ(右写真)なども育てています。これらに芽の出た木々は、さらに大きなポット苗へと移植されます。それが、各地での植樹奉仕の木々となり、



ここが奉仕の出発点です。



ジョーンズさんについて回りダチョウが餌探し

そして植樹地の草刈りには、放し飼いのダチョウが餌を探しながらついてきます。秋に実る美味しいバンレイシを守る鳥害保護用のペットボトル。

また今までにレダで育ったカピバラ8匹は自然に返されて、家族を作り人気者となっています。是非見に来てください。

(伊達駐在員報告)

## 春の1日セミナー

4月14日(土)10時受付。春の1日セミナーが国立オリンピック青少年総合センターで行われます。昨年はちょうど桜が満開の季節でしたが、今年は春芽の葉桜の時期となると思います。

高津理事長のフィールドワークによる、森の説明も聞くことができます。また、パンタナールでの植樹と、環境保護を中心とした講義を受けることができます。この機会にぜひ一度、参加されることをお勧めいたします。

会費は2000円で昼食付きです。会員間の良き交流の場ともなります。



鳥害を守るバンレイシのペットボトル



カシューナッツの苗木

[お知らせ] 4月14日(土)国立オリンピック青少年センターで、春の1日セミナーを開きます。参加希望を募っています。